

# 麦酒祭

むぎざけまつり



今なおつゞく素朴な神事ビールの祖

總社神社

とき：7月18日 ところ：滋賀県甲賀市水口町牛飼

## 麦酒祭の起源



喜吉元年今から五七〇年前（後花園天皇の御代、室町時代の初期）本殿修履成りて竣工祭あり、時に新麦をもって麦酒を醸り、麦の豊作を感謝し年々の豊穰に合わせて暑気の悪病除を祈願せしものなり、その日を記念として絶えることなく、宮守が醸造人となりて、醸造奉納を行い麦酒祭として今日にいたる。（ばくしゅうまつりともいう）

またこの地謡曲の牛飼車より知られ近くの美濃部村（今の水口町八光）には、菅原道真公の子孫があり氏を美濃部といい居住していることより、この地方には道真公が早くよりおられたことは明白である。

（水口町史より）

## 牛飼村の起源

安和年代から約一、〇〇〇年余前（平安時代）この地草原にして、農耕に適し、水田、畑等早くより開けわけても草原地には放牛多く、ゆえに平安京よりの御耕牛を養い特に菅原道真公には、延喜年代に御耕牛を献じこのため牛飼の名を賜ひしと伝う。

## 総社神社の起源

創立は、康和二年今より約六七〇年前のご造宮で総社大明神と申し、牛飼村十二戸の祖先を祀りしものにして祭神は大己貴命である。



## 精進料理「はっさく」

昔よりうけついできたこの種の料理は、現在は年に一度氏子の総会に麦酒の「つまみ」として使用されている。主な原料はふるさとの野菜である。

# 牛飼の歴史

牛飼の集落は飯道山の東麓に位置し、とうろく 仙川せんがわ にむけてひらいた農村として推移してきました。集落山手には横穴式石室を持つ古墳群があることから、人々の集住は早く古墳時代後期に遡るとみられます。じょうじょうじゆうじ 仙川せんがわ 牛飼の地名は一説には聖武天皇が紫香楽宮造営にあたり、農耕奨励のうこうしょうれい のために牛を飼ったことにちなむと伝えられています。

中世は池原仙庄に属し、江戸時代は旗本美濃部氏ら複数の領主支配を受けましたが、仙街道に接し集落内を信楽道が通じることなどから商家なども成立、とくに幕末から近代にかけては前挽鋸製造など農村工業も起こっています。また当地出身の人物としては幕末維新期に勤皇家として活躍した城多耐軒氏きただたいけん がよく知られています。明治22年の市町村制施行により北仙村に属し、その後の合併により昭和17年には貴生川町、同30年には水口町に属し、平成16年には甲賀市に属することになりました。

宮の前には牛飼の鎮守総社神社に大己貴命が祀られ、毎年7月18日には有名な「麦酒祭」がとり行われ、又、江戸時代から続く総社神社・八幡神社・稻荷神社の三社にまつわる年間の宮守行事が、滋賀県選択無形民俗文化財（平成13年3月19日付）になっています。沢には浄土宗栄林寺・福泉寺・地蔵堂が、麻生田に日蓮宗立泉寺があります。

牛飼区

総社神社へのアクセス／

JR草津線貴生川駅からバスまたはタクシー

新名神甲南ICから15分、新名神信楽ICから10分

飯道山観光協会

問い合わせ／甲賀市観光協会：TEL.0748-60-2690